

（仮称）小平町風力発電事業
環境影響評価方法書
補足説明資料

令和7年7月

ENEOS リニューアル・エナジー株式会社

風力部会 補足説明資料 目 次

1. 図2. 2-3風力発電機の配置計画について【方法書P. 11】
2. 図2. 2-3風力発電機の配置計画について【方法書P. 11】（非公開）
3. 図2. 2-3風力発電機の配置計画について【方法書P. 11】（非公開）
4. 図の解像度について【方法書P. 13】
5. 資材運搬について【方法書P. 14】
6. 資材運搬について【方法書P. 14】
7. 緑化について【方法書P. 14】
8. 残土について【方法書P. 15】
9. 風配図・風力図、下図、及び凡例等不鮮明について【方法書P. 18】
10. 事業実施想定区域北西側の除外について【方法書P. 19】
11. 風配図・風力図、下図、及び凡例等不鮮明について【方法書P. 28他】
12. 貯水池の目的について【方法書P. 33～36】
13. 水象の状況および湖沼等の利用について【方法書P. 33, 111】
14. 植生の概要について【方法書P. 70】
15. 風車と住居との距離について【方法書P. 117】
16. 猛禽類調査について【方法書P. 188, 190】
17. 誤記について【方法書P. 262】
18. 騒音予測の出典について【方法書P. 275】
19. 風況観測塔から得られる気象データについて【方法書P. 276】
20. JISの発行年度について【方法書P. 277】
21. 騒音及び低周波音の予測の距離減衰値について【方法書P. 275～276, 280】
22. 融雪出水期とそれ以外の降雨時調査について【方法書P. 281～282】
23. 土壌調査地点について【方法書P. 282, 284】
24. 降雨条件について【方法書P. 282】

- 25. 河川・沢への濁りの影響の定量予測について【方法書P. 282】
- 26. 集水域について【方法書P. 283】
- 27. 集水域について【方法書P. 283】
- 28. 水質調査地点について【方法書P. 283】
- 29. 水質調査地点について【方法書P. 283】
- 30. 「風車」指針値について【方法書P. 286】
- 31. 風渡りの状況の調査期間について【方法書P. 288】
- 32. 鳥類調査方法と用語の統一について【方法書P. 299】
- 33. 魚類・底生動物の調査について【方法書P. 296】
- 34. 渡り鳥の調査ポイントについて【方法書P. 296】
- 35. 魚類の調査地点について【方法書P. 304】
- 36. 植物の調査、予測及び評価の手法について【方法書P. 305～310】
- 37. 植生調査について【方法書P. 305、307～309】
- 38. 餌資源量分布図について【方法書P. 314】
- 39. 生態系の調査方法及び内容（上位性種）について【方法書P. 315】
- 40. 典型性の比較検討について【方法書P. 317】

1. 図2. 2-3風力発電機の配置計画について【方法書P. 11】

風車間の作業用道路として利用可能な既存の林道は走っているのでしょうか？ 既設道路および新設道路（作業用道路やアクセス道路）の長さや構造（側溝の有無など）についてお示し下さい。

事業実施想定区域内には作業用道路として利用可能な既存林道がございます。既設道路に関しましては方法書本編に記載しております。新設道路の長さや構造については準備書以降の段階でお示しいたします。

2. 図2. 2-3風力発電機の配置計画について【方法書P. 11】（非公開）

現時点での計画で結構ですから、風車の配置計画を示して下さい。

上記の情報は別添資料（非公開）に示すとおりです。

3. 図2. 2-3風力発電機の配置計画について【方法書P. 11】（非公開）

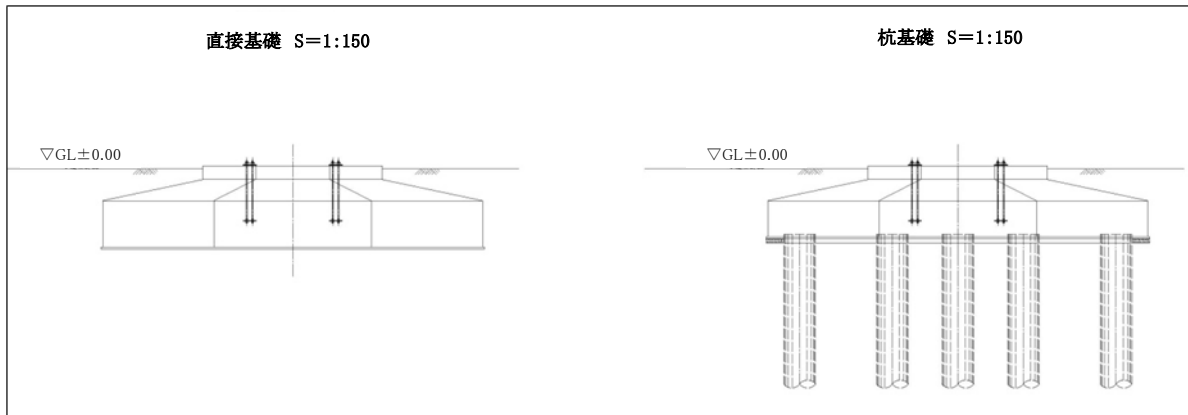
対象事業実施区域に関連して、その位置図や風車の配置計画図などが示されていますが、いずれの図からも等高線や山の標高等を読み取ることが困難です。風車の配置計画の図面では、地形や等高線が読み取れる図面として下さい。

上記の情報は別添資料（非公開）に示すとおりです。

4. 基礎構造図の解像度について【方法書P.13】

図2.2-5は解像度が悪く数値が読めないので解像度を上げてください。

数値を拡大した図面を以下に示します。



5. 大型資材の積み替えについて【方法書P.14】

大型資材の輸送に際し、途中での積み替えを行うのでしょうか。行う場合には周辺民家等から離隔をとるようにお願いします。

積み替え場については、可能な限り対象事業実施区域内に設置する考えですが、周辺民家等からの離隔も含め、詳細な位置を検討してまいります。

6. 資材運搬車両ルートについて【方法書P.14】

大型資材の運搬ルートと同じように、運搬車両や工事関係者の運搬等ルートを明確に定め、道路交通騒音の精度向上に繋げて下さい。

今後の工事計画の検討において、大型資材の運搬以外の車両についても、ルートを明確に定め、適切に道路交通騒音の予測及び評価を行います。

7. 緑化について【方法書P. 14】

「吹付を行う種子の種類及び配合は、在来種を考慮して検討」とありますが、外来牧草等も含めてお考えということでしょうか。

現時点で、外来牧草の使用は検討に含めておりません。

8. 残土について【方法書P. 15】

現時点での計画で結構ですから、盛土・切土・残土に関する土量を示して下さい。

盛土、切土、残土の数量に関しましては、現時点では土木設計を開始したばかりであり、具体的な数値をお示しできる段階にはございません。

今後設計を進め、準備書以降の段階で具体的な数値をお示しいたします。

9. 累積的な影響について【方法書P. 18】

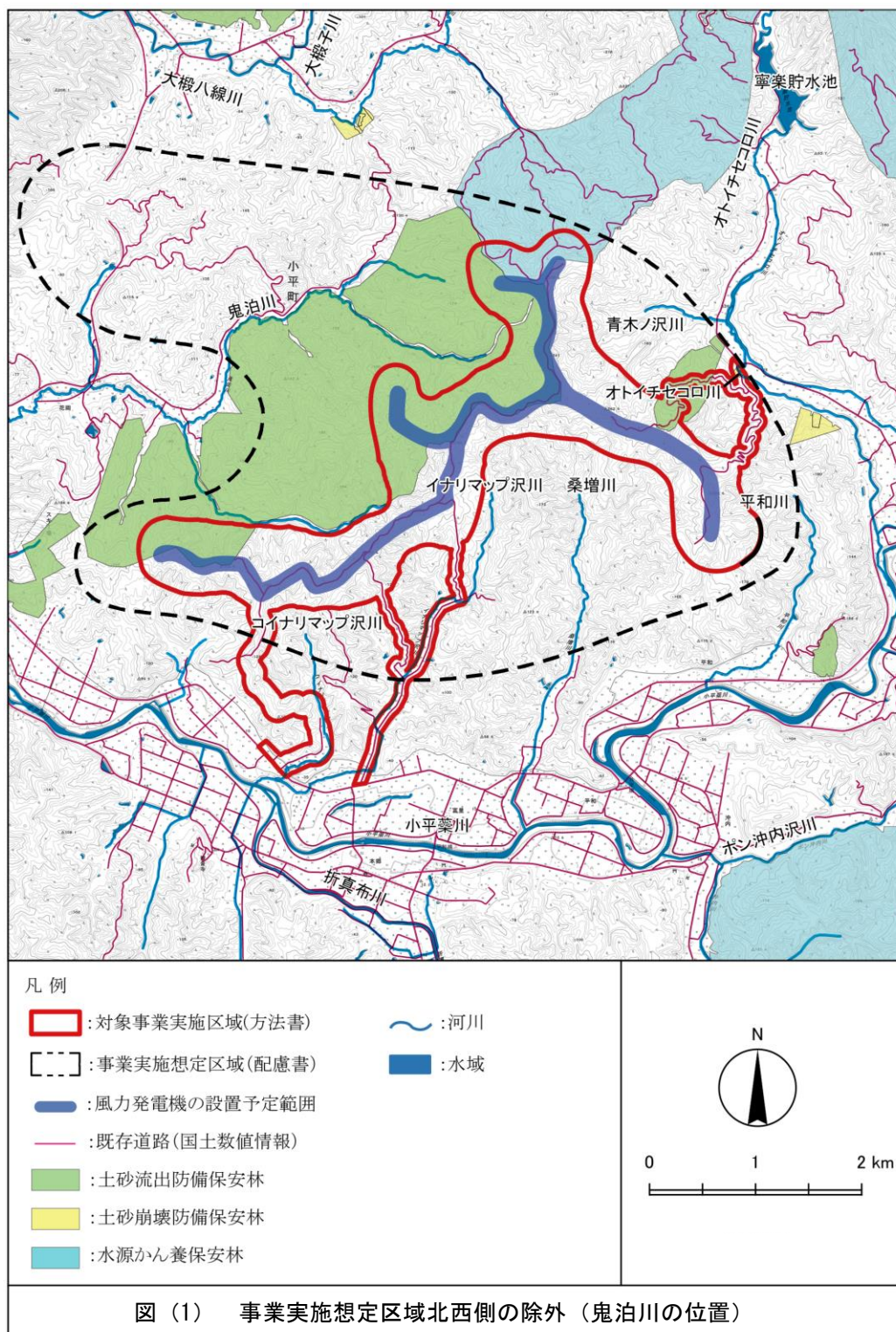
周辺の風力発電事業とは相互に離れているために、累積的な影響は小さいと推察されますが、影響が小さいことを推計し示すことが重要と考えます。

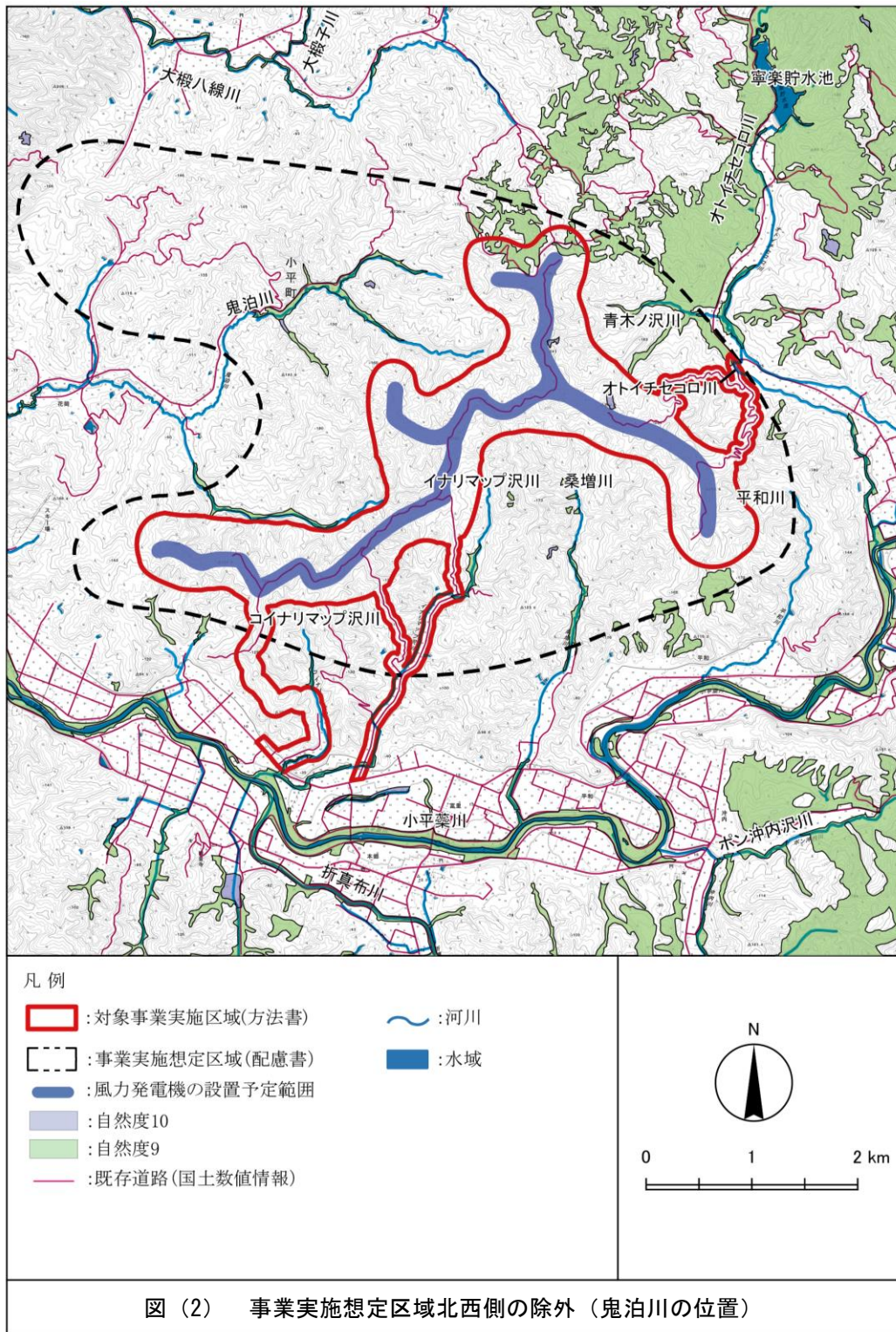
御指摘のとおり、周辺の風力発電事業との累積的な影響の有無や程度についても、今後の調査、予測及び評価において、適切に把握しお示し致します。

10. 事業実施想定区域北西側の除外について【方法書P. 19】

事業実施想定区域北西側を除外する理由として、「保安林や下流域（鬼泊川沿い）に生育する……重要な植物群落への影響が懸念される。」（p. 19）としていますが、図2. 2-10(1), (2)からは鬼泊川の位置が分かりません。鬼泊川の位置を記載して下さい。

以下の図にお示しするとおりです。





1 1. 風配図・風力図、下図、及び凡例等不鮮明について【方法書P. 28, 29, 47～48, 49, 55, 71～73他】

P28の風配・風力図が、P29のそれと比べて不鮮明です。同じくコウモリおよび海ワシ分布他を示す図の下図の地図もしくは凡例が不鮮明です。以降の頁でも不鮮明な地図が見られます。

御指摘頂きました図面も含め、準備書段階の図書に掲載する図面につきましては鮮明な見易い図面を掲載するように致します。

1 2. 貯水池の目的について【方法書P. 33～36】

事業実施区域の北東部に寧楽貯水池がありますが、この貯水池の目的は何でしょうか？

昭和2年に築造された農業用のため池になります。

1 3. 水象の状況および湖沼等の利用について【方法書P. 33, 111】

事対象事業実施区域が集水域に含まれる水系については貯水池等も含め記述するとともに、貯水池等の利用目的についても示すことを御検討下さい。

御指摘のとおり、対象事業実施区域周辺に設置された貯水池については準備書段階の図書にてその名称、位置、設置目的を記載するように致します。

14. 植生の概要について【方法書P. 70】

植生の概要は、当該地域の生態系の状況を植生の種類や配分から分かりやすく述べてください。実施区域の植生は、そこを取り囲む周辺地域と比べてどのように違うのか、土地利用を含め自然・代償の各植生がどのように配分しているのか。地形や植生帯の特徴など、説明を読んで、本地域の植生の特徴が理解できるよう簡潔にお示しください。

対象事業実施区域周辺については、小平薬川等の河川に沿っての平地が続いているほか、広く山地が広がっている。平野部は住宅地や耕作地として利用されており、畑地雑草群落や水田雑草群落等の草地環境が分布している。対象事業実施区域周辺の大半を占める山地には、広くシラカンバーミズナラ群落を主体とする二次林や、トドマツ植林を主体とする植林が分布している。北東部にはエゾイタヤミズナラ群落、南東部にはトドマツミズナラ群落、河川沿いや沢部にはハルニレ群落やヤナギ高木群落を主体とした自然林が分布しているが、対象事業実施区域内には広く二次林や植林が分布しており、自然林や草地は尾根上の一部や沢部など限定的である。

15. 風車と住居との距離について【方法書P. 117】

準備書では、風車に最寄りの住居について位置と距離を示してください。

承知致しました。準備書段階では風力発電機の配置を明記した上、最寄り住居の位置と距離をお示し致します。なお、方法書段階における風力発電機と最寄り住居の位置については非公開別添資料 P. 117 にお示しのとおりです。

16. 猛禽類調査について【方法書P. 188, 190】

猛禽類調査に関する専門家の意見に「事業実施想定区域内の中心部に定点観察地点がないと十分な調査結果が得られない可能性が考えられる」とあります。近隣の海岸沿いの風発でBSが予想以上に生じていると報じられている他、当該地域もサケの遡上を狙う猛禽類が河川利用するようですので、生息地の十分な調査が必要と思われます。

専門家からの御意見を踏まえ、猛禽類調査地点 ST17（図 6. 2-9 鳥類（希少猛禽類）調査地点参照）を設定し、当該地域の飛翔状況の把握精度向上に努めております。

17. 誤記について【方法書P. 262】

トビゲラ→トビケラ？

御指摘のとおり、誤記がございましたので準備書にて修正いたします。

18. 騒音予測の出典について【方法書P. 275】

ISO9613-2を用いた施設の稼働に伴う騒音予測に関して、参照するISOの発行年度を記載して下さい。例えば、ISO 9613-2:2024であれば、予測計算を支える参考情報が掲載されているため参照して下さい。

御指摘のとおり、ISO 9613-2:2024 を用いる予定であり、対応する参考情報を参照致します。

19. 風況観測塔から得られる気象データについて【方法書P. 276】

2箇所設置する風況観測塔から得られる気象データをどのように活用するのか、準備書の中で確認して下さい。

御指摘の通り、準備書の中で明確にいたします。

20. JISの発行年度について【方法書P. 277】

参照するJIS Z 8735の発行年度を記載して下さい。

発行年度が分かるよう準備書ではJIS Z 8735:1981 と記載いたします。

2 1. 騒音及び低周波音の予測の距離減衰値について【方法書P. 275～276, 280】

騒音および低周波音の予測計算にあたり、予測値のみではなく、考慮される減衰項の予測値も準備書で明示して下さい。それによって、騒音および低周波音の予測値の妥当性の確認が容易になります。なお、補足資料として示していただければ結構です。

上記について、準備書資料編、又は補足説明資料等でお示し致します。

2 2. 融雪出水期とそれ以外の降雨時調査について【方法書P. 281～282】

水質調査の方法が示されており、降雨時調査が2回予定されています。事業実施区域周辺は豪雪地帯ですが、一般に融雪期とそれ以外では出水の形態が異なることが知られています。そのため、可能であれば降雨時調査も融雪出水期とそれ以外の降雨時に調査を計画していただければと思います。

融雪期は主に 4～5 月頃を想定しておりますが、調査地点として設定した水路やその周辺には雪が集まり残っていることが多く、調査が困難であるため、現時点では一般的な降雨時における調査を計画しております。

2 3. 土壌調査地点について【方法書P. 282, 284】

土壌調査地点ですが、同じ褐色森林土Ⅱに分類される地点で5地点調査を予定されています。通常は同じ分類土ではせいぜい2地点程度まで調査されるのが普通だと思いますが、今回このような多数土壌を採取される特段の理由があるのでしょうか。

対象事業実施区域のほぼ全域がこの褐色森林土Ⅱに分類されているものの、区域が広く調査地点間も離れることが想定されたため、風力発電機の設置が想定される尾根毎に地点を設定いたしました。

24. 降雨条件について【方法書P. 282】

降雨条件については、「時間雨量は既存観測所の過去10年間の時間降水量を、・・・最近の気象状況を踏まえた、集中豪雨等の場合も踏まえ設定する。」と記載されていますが、具体的な降雨条件がよく理解できません。集中豪雨のような条件だけでなく、出現頻度の高い日常的な時間雨量の条件についても検討してください。

御指摘のとおり、出現頻度の高い日常的な時間雨量を整理した上で降雨時調査の条件を設定する考えです。集中豪雨についてもその発生状況は確認いたしますが、実際に調査を行うのには危険が伴うため、その条件に近い降雨時での調査を検討いたします。

25. 河川・沢への濁りの影響の定量予測について【方法書P. 282】

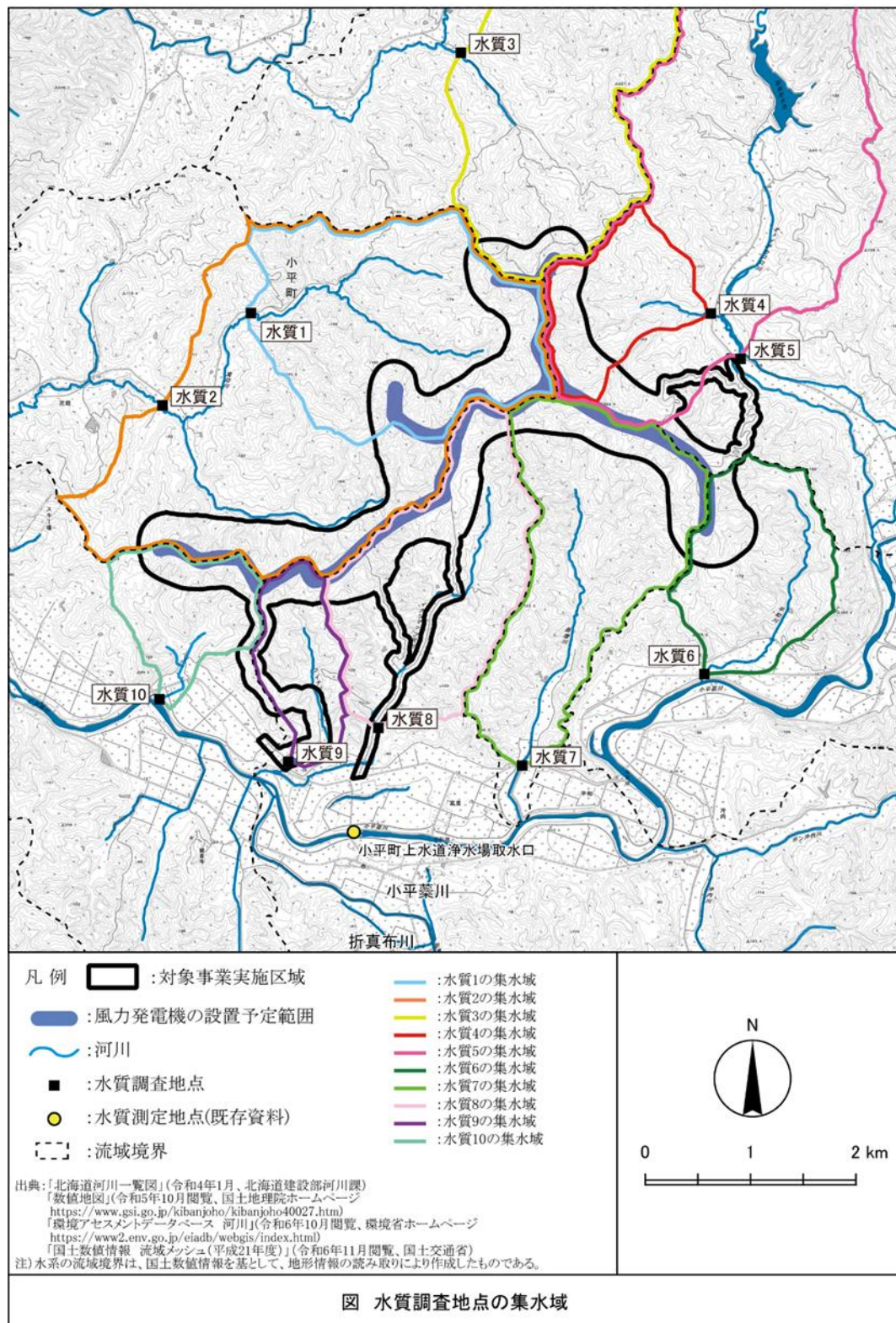
「仮設沈砂池からの濁水が土壌表面を流下する距離を予測することにより、周辺河川等に流入する浮遊物質量を定性的に推測する。」との記載ですが、濁水が河川や沢に到達する可能性がある場合には、河川・沢への濁りの影響を定量的に予測評価してください。

御指摘のとおり、濁水が河川や沢に到達すると予測される場合には、定量的な予測及び評価も併せて実施いたします。

2 6. 集水域について【方法書P. 283】

「図6.2-3水質調査地点」各水質調査地点の集水域を明示してください。

以下の図にお示しのとおりです。



27. 集水域について【方法書P. 283】

水質調査点と流域の関係が図示されていますが、各河川の流域ではなく各調査点の集水域を示してください。

上記の設問21で回答のとおりです。

28. 水質調査地点について【方法書P. 283】

水質2の調査地点は、ここよりも1km程度上流で鬼泊川と合流する支流上に設定できないでしょうか？ この支流の上流には自然度9の群落があるようなので。

御指摘いただいたエリアへアクセスする林道等が整備されておらず、調査地点として設定することは困難であるため、方法書にお示しの地点での調査を考えております。

29. 水質調査地点について【方法書P. 283】

水質6や水質7の調査地点はもう少し上流に設定できないでしょうか？

水質6、7の上流側については、安全に水路内へアクセスするルートが確保できない、私有地が多く地域住民へ御迷惑をかけるおそれがあるため、橋梁付近の安全に水路へ下りられる範囲での調査を予定しております。

30. 「風車」指針値について【方法書P. 286】

「環境省総合環境政策局 環境影響評価課 環境影響審査室」に示されている海外の指針値」とは具体的にどのような指針値でしょうか。

参考として当該資料に示されている海外の指針値のうち、国内の環境影響評価で多く用いられている「年間30時間かつ1日30分間を超えないこと（気象条件等を考慮しない場合）」及び「年間8時間を超えないこと（気象条件等を考慮した場合）」との比較を行う考えです。

3 1. 風渡りの状況の調査期間について【方法書P. 288】

当該地域は、海ワシ類やノスリなどの猛禽類、ガン類、ハクチョウ類をはじめ、多くの渡り鳥の渡り経路に位置します。渡り鳥の種類によって渡りのピークの時期が異なり、また、年による変動もあります。渡りの状況を正確に把握するために、調査時期を適切に設定するとともに、必要な調査期間を確保するようにしてください。

渡りの状況を把握できるように、3～5月、9～11月の各月で上旬、中旬、下旬に調査を実施する他、猛禽類調査等で確認された渡り行動についても整理してまいります。

3 2. 鳥類調査方法と用語の統一について【方法書P. 299】

ラインセンサス法の調査位置が偏在しているように見えますが、調査結果はどのような用途に用いるのでしょうか？定量的な調査をスポットセンサス（ポイントセンサス？）で行なうのであれば、示してあるルートは任意調査で鳥類相と重要種の分布状況を把握したほうが良いと思われます。余力があるのであれば、ポイントを増やした方が良いと思います。なお、本ページではスポットセンサス法、292ページではポイントセンサス法となっているので、用語は統一してください。

ラインセンサス法の調査結果は、ポイントセンサス法の調査結果と併せて、生態系で上位性種の対象としましたクマタカや、典型性種の対象としました森林性小型鳥類（カラ類）の解析などに用いる予定です。ルートの偏りについては道の審議会においても指摘を受けておりますが、対象事業実施区域内についてはラインセンサス法の実施に適したルートが限られているため、ポイントセンサス法の追加を検討し、調査精度の向上を図ってまいります。なお、準備書では調査方法は「ポイントセンサス法」に統一致します。

3 3. 魚類・底生動物の調査について【方法書P. 296】

魚類・底生動物について、設定された「地点」のみの調査では動物相や重要な種の把握は不十分と考えられますので、河川環境等の異なる複数の地点について適宜調査を行なうとともに、準備書では実際に行った調査の概要について示すことを御検討下さい。

調査地点と記載させていただいておりますが、各調査地点から上下流側 100m 程度の範囲を調査対象としており、生息環境の異なる複数の生物を把握できるものと考えております。

34. 渡り鳥の調査ポイントについて【方法書P. 301】

渡り鳥の調査ポイントで北側が可視領域でカバーできていませんが、猛禽類と同じ北側の地点に観測点は設けないのでしょうか？

渡り鳥の主な飛翔経路が把握できるよう、調査地点は東西方向に設定いたしました。北側については、図面でお示ししている定点とは別途実施する移動定点において、適宜把握に努める計画です。

(2次質問)

現時点での想定で構いませんので、移動定点で想定している地点か範囲を地図で示してください。準備書では実態に合わせて変更していただいて構いません。

(2次回答)

基本的には同図(P. 301)でお示ししております「主な移動観察ルート」を想定しており、確認状況に応じて猛禽類調査地点図(P. 300)における st. 2 や st. 13 等の地点を使用し補足いたします。

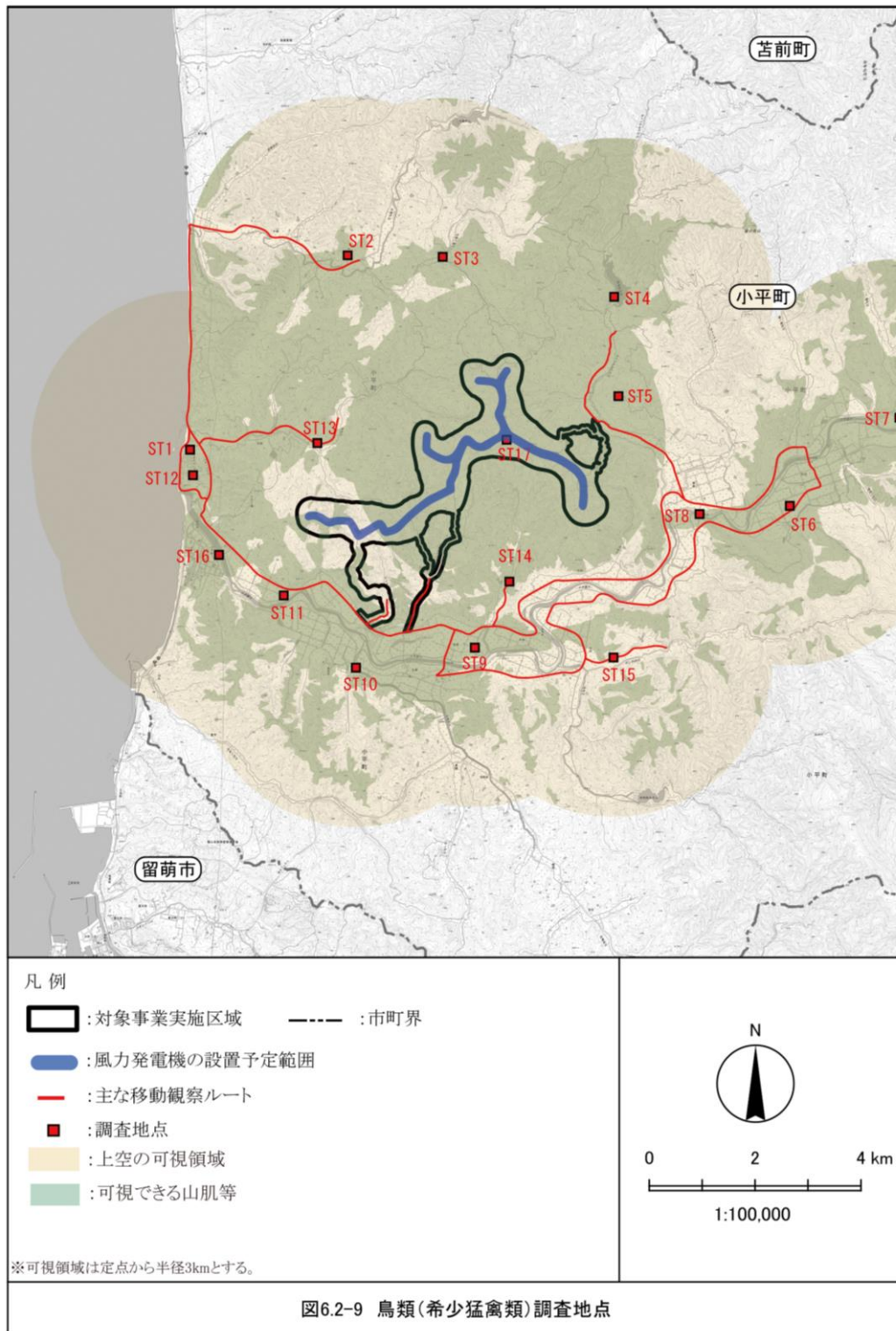


図 猛禽類調査地点 (方法書 P. 300)

35. 魚類の調査地点について【方法書P. 304】

遡上したサケを捕食する猛禽類が居るならば、魚類の調査地点に小平薬川の本流を遡上する個体がどの程度居るのか、についても調査する必要があるのではないのでしょうか。

小平薬川を遡上しているサケの個体数については、地元漁協等へのヒアリングを通じて把握を検討致します。

36. 植物の調査、予測及び評価の手法について【方法書P. 305～310】

・方形区によるコドラート調査とあります。ブラウーンブランケ法は調査枠内を調査するので一種のコドラート法ではありますが、植生調査に当たっては、調査対象植分が生育している地形などの立地環境や植物の生育状態などに沿って調査を行うため、必然的に四角形の方形区ではなく不定形の調査枠となります。また、方形区の一辺の長さは群落高を目安とするとありますが、これは経験則的な目安に過ぎません。シバ草原などは高さが5cm前後なので、5cm×5cmとなってしまいます。高層湿原や高山植生などでは隣接群落との立地的違いや礫の大きさや有無に注意しながら調査を行います。高木林では面積が広くなるため、四角形の方形区では調査区が隣接する他の群落と交錯するなど異質の構成種が混入することがあり望ましくありません。

・植生調査期間が7～9月の1季のみとされていますが、植物相調査と植生調査とは並行して行った方がよく、想定した調査時期以外にも例えば春季相などの調査すべき植分が見つかることもあるので、時期を限定せず臨機応変な調査を行っていただきたい。

・発電機の設定位置が未定なので、位置が決定した時点であらかじめ設定した植生調査地点を再検討していただきたい。また、植生調査地点は各群落を代表することも設定根拠として必要であるが、環境アセスメントでは現地調査において立地的に特徴的な植分や改変地域などは注意して設定を検討していただきたい。

・方形区の設定に際しては、調査対象の植生を適切に把握できるように、現地の状況を鑑みながら四角形にこだわることなく設定する様に致します。

・御指摘のとおり、方法書に記載した調査時期に拘らず、臨機応変に調査を実施いたします。

・植生調査地点は、現存植生図を基にした方法書段階での設定であるため、現地の状況や事業計画を踏まえながら、適宜、植生調査地点の変更や追加などを行います。

37. 植生調査について【方法書P. 305、307～309】

植生調査地点数が43地点と事前に決められており、内容を見ると植生区分図の代表的な複数地点に設置（コドラートサンプリング）されているように見えます。しかし、風力アセスでは①対象事業実施区域にある重要な群落を把握する、②改変区域の動植物の生息・生育環境としての植生状況を把握する、③回避や移植などの対象となる重要種の生育する植生区分を見極めるなどの意義がありますので、現地の状況を踏まえて柔軟に調査地点を検討すべきと思います。特に①では、植生図に図示されないような小面積の群落を把握するようにつとめてください。

・ 植生調査地点は、現存植生図を基に方法書段階で設定した配置ですので、現地の状況や事業計画を踏まえながら、適宜、植生調査地点の変更や追加などを行います。

38. 餌資源量分布図について【方法書P. 314】

- ・ 作成した餌資源量分布図は改変区域との関係は検討しないのでしょうか？
- ・ 点線の比較は何を意味するのでしょうか？
- ・ 上位性では利用環境分布図の作成と比較するようになっておりますが、好適採餌環境分布図の検証であれば採餌場所の分布地点とダイレクトに比較すべきではないのでしょうか？
- ・ カラ類の好適出現環境分布図は種ごとに作成するのでしょうか？

- ・ 餌資源量分布図は、好適採餌（出現）環境分布図作成時の検証資料としており、現時点では改変区域との関係の検討は想定しておりません。
- ・ 好適採餌（出現）環境分布図作成時の検証資料を示しております。
- ・ 採餌行動の確認地点のデータは、好適採餌環境分布図作成時の解析に用いる資料の一つとしております。
- ・ 現時点ではカラ類全体での作成を検討しております。

(2次質問)

こちらの質問とご回答が整合していないようです。フロー図について、何を意図しているのが読み取りにくい点について指摘しております。

(2次回答)

ご指摘を踏まえ、フロー図を一部修正いたします。点線部分の「比較」は分かりにくい表現であったため「検証」としました。採餌行動の確認地点のデータは、好適採餌環境分布図作成の際の解析資料として直接用いておりますので、直接線でつなぐよう修正致しました。

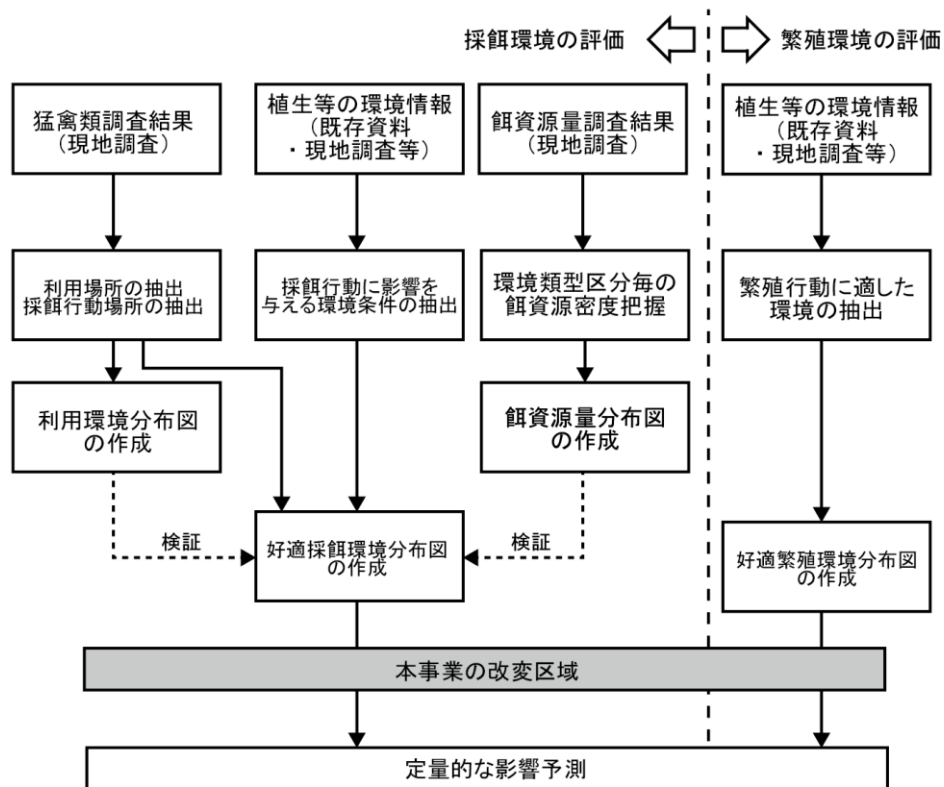


図 生態系調査・予測フロー図（上位性種：クマタカ）

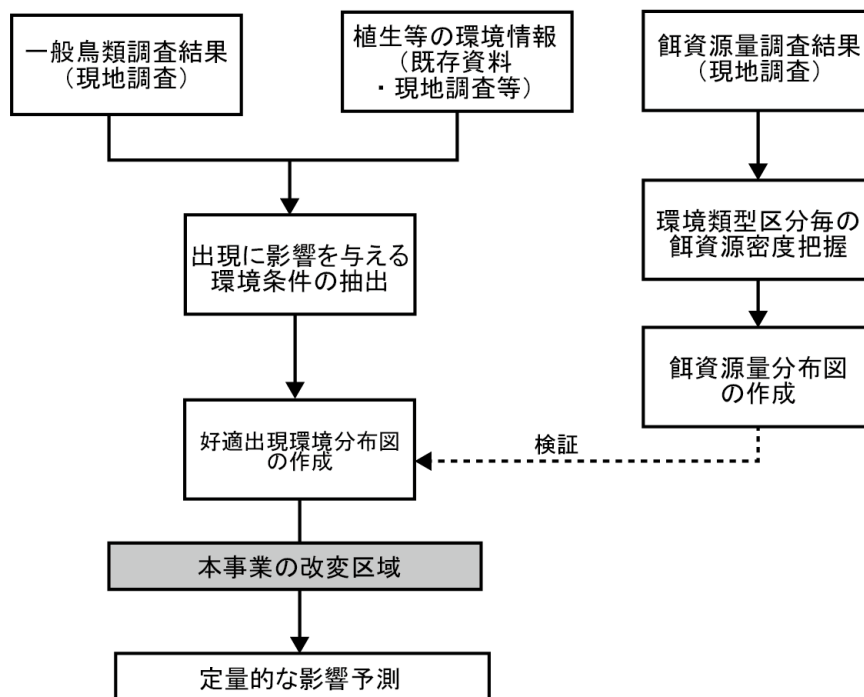


図 生態系調査・予測フロー図（典型性種：森林性小型鳥類（カラ類））

39. 生態系の調査方法及び内容（上位性種）について【方法書P. 315】

生態系の調査方法及び内容の詳細を記載した表が典型性種についてしかありません。上位性種も作成してください。

生態系の調査項目のうち、動物の調査とは別途予定している調査項目の調査方法および内容を整理したものをお示ししております。生態系の調査方法及び内容は以下のとおりです。

生態系の調査方法及び内容（上位性種）

項 目	調査手法	調査手法の概要
生息状況調査	定点観察及び移動観察	定点観察地点及び移動観察ルートにて、双眼鏡及び望遠鏡を用い、出現した希少猛禽類を目視により識別し、種名、年齢、性、飛翔高度等を記録する。また、写真撮影を行い、個体識別情報をできる限り取得する。【鳥類（希少猛禽類）の調査結果を整理】
餌資源量調査	目撃・フィールドサイン法	調査地域を踏査し、足跡、糞、食痕等の痕跡により生息種及び生息状況を確認する。【哺乳類（コウモリ類以外）の調査結果を整理】
	自動撮影法	調査地域に設定した調査地点において、赤外線センサーにより自動で哺乳類を撮影できるカメラを設置し、撮影された映像により生息種及び生息状況を確認する。1 季あたりの設置期間は 1 週間以上とする。1 地点あたりのカメラ台数は 1 台とする。【哺乳類（コウモリ類以外）の調査結果を整理】
	ラインセンサス法	調査地域に設定した調査ルートにおいて、ルートの片側 50m（両側で 100m）の範囲に出現した鳥類を目視又は鳴き声により識別し、生息種及び生息状況を確認する。調査時間帯は早朝から午前中とし、複数回行う。【鳥類（一般鳥類）の調査結果を整理】
	ポイントセンサス法	調査地域に設定した調査地点において、出現した鳥類を目視又は鳴き声により識別し、生息種及び生息状況を確認する。調査時間帯は早朝から午前中とし、1 地点あたり 15 分とし、複数回行う。【鳥類（一般鳥類）の調査結果を整理】
	目撃・捕獲法	調査地域を踏査し、目撃や捕獲により生息種及び生息状況を確認する。【爬虫類の調査結果を整理】
繁殖環境調査	定点観察及び移動観察	定点観察地点及び移動観察ルートにて、双眼鏡及び望遠鏡を用い、出現した希少猛禽類を目視により識別し、種名、年齢、性、飛翔高度等を記録する。また、写真撮影を行い、個体識別情報をできる限り取得する。【鳥類（希少猛禽類）の調査結果を整理】
	営巣木調査	営巣の可能性が想定された区域において、対象となる猛禽類の繁殖ステージを考慮し、繁殖に影響を与えない適切な時期に踏査を行い、営巣地の有無等を確認する【鳥類（希少猛禽類）の調査結果を整理】

（2 次質問）

生態系調査の内容は、動物や植物の調査と重複していても、記載するようにしてください。

（2 次回答）

承知いたしました。準備書段階の図書にて記載致します。

40. 典型性の比較検討について【方法書P.317】

上位性注目種が6種の比較検討を行なっているのに対し、本来選択肢がより多いはずの典型性で比較対象の種・種群が3つでは少なすぎるのではないのでしょうか。公表されている生態系のガイドなどに掲載されている種・種群の例を参考により多くの種・種群を比較し、地域特性・事業特性に適したものを選定するようにしてください。

対象事業実施区域の大半がシラカンバーミズナラ群落およびトドマツ植林であることから、樹林環境への依存度の高い生物または生物群集から典型性注目種の候補を抽出致しました。

（二次質問）

追加できる候補はまだあると思います。再度ご検討ください。

（二次回答）

準備書段階の図書では、典型性注目種の候補にキツツキ類を追加致します。

表 典型性注目種候補

候補種	分類	抽出の理由
キタリス	哺乳類	主に植物質を食するが、昆虫など動物質も採食する雑食性で、上位捕食者の餌資源として生物間相互作用に重要な役割を持つ。対象事業実施区域及びその周辺で広く確認されていると考えられる。
森林性ネズミ類	哺乳類	植物質、動物質を採食する雑食性で、上位性捕食者の餌資源や種子散布者として生物間相互作用に重要な役割を持つ。対象事業実施区域及びその周辺で広く確認されていると考えられる。
森林性小型鳥類 （カラ類）	鳥 類	植物質、動物質を採食する雑食性で、上位性捕食者の餌資源や種子散布者として生物間相互作用に重要な役割を持つ。対象事業実施区域及びその周辺で広く確認されていると考えられる。
キツツキ類	鳥 類	主に昆虫などの動物質を食するが、果実や種子などの植物質も採食する雑食性で、上位捕食者の餌資源として生物間相互作用に重要な役割を持つ。対象事業実施区域及びその周辺で広く確認されていると考えられる。

表 典型性注目種の選定結果

評価基準	種 名			
	キタリス	森林性ネズミ類	森林性小型鳥類 (カラ類)	キツツキ類
調査地域で優占する。あるいは個体数が多い。	○	○	○	△
四季を通じた現地調査で通年生息している。	○	○	○	○
改変区域を利用する。	○	○	○	○
生物間の相互関係や生態系の機能に重要な役割を持つ。 (雑食性が強く、他種と広く関係するなど)	○	○	○	△
調査地域の環境を指標する。	○	○	○	○
地形改変や風力発電機の稼働により影響を受ける可能性が高い。	×	×	○	○
選定結果	—	—	選定	—

注) 「○」該当する、「△」一部該当する、「×」該当しない、「—」選定しないことを示す。